

令和4年度（第3回） 身近な教育委員会 実施概要

区民が身近に感じる教育委員会の実現に向けて、「身近な教育委員会」を下記のとおり実施しました。

記

日時 令和5年2月1日（水） 18時30分～20時00分

場所 教育支援センター研修室（本庁舎南館6階）

概要

第一部 第3回教育委員会

報告事項「板橋区における区立中学校部活動改革の推進について～Introduction～」

第二部 参加者懇談会

○質疑コーナー

内容要旨は次ページ以降のとおりです。

参加者 58名

内訳 保護者等 40名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 長沼豊委員（オンライン参加） 野田義博委員

教育委員会事務局関係者 13名



参加者懇談会〈質疑コーナー〉

第一部の内容をうけて、各グループで感想を話し合い、疑問に思ったことをあげていただきました。

各班からの質問（要旨）

Q.地域クラブへ移行とした場合、かなり高額な月謝が必要になってくる場合、ご家庭で払えないとなると、払えない家庭の子への配慮はどうなっているか。

A.スポーツ庁及び文化庁の提言の中でも、地域クラブへの移行に際して一定のコストを払うことになるでしょうということが書かれています。

同時に、現行部活動におきましては、「先生の献身的な活動により」というような言葉が使われておりますが、適正なコストが払われていないといった中で持続可能性がなかったという視点もある中で、今後、地域クラブ等を新しく作っていく場合には、適正な対価を支払う必要があるであろうという考え方も示されています。そうすると、おっしゃるように費用を払うということが起きると思います。

同時に、経済的理由でできる人とできない人が現れるということは、絶対に避けなければいけないことです。今後、地域移行、地域展開を考えていく上では、最重要課題と思っています。

現行の制度で申し上げますと、例えば生活保護を受けられているような方々については、教育扶助で、部活動に関する費用を実費で補填されるような仕組みもあります。

ただ、その先、あらゆる方々がコスト増になったようなときを見据えてしっかりと議論していかなければならないとても重要な項目と認識しております。

Q.中体連は話についてきているのでしょうか。大会に出る資格がありませんと中体連に言われてしまうことはないのか。中体連との交渉・制度の整理は、どのように進んでいるのか。

A.現行のシステムを大きく変えようとする、様々に整合を図らなければいけない項目があると思います。その中の1つに、そういった大会の運営等もあるかと思っています。

例えば提言などでは、そういった、今言った、大会等の参加の話について、国等が中体連にしっかりと考えてほしいということで要望されています。現行も大分仕組みが変わって、今年4月からはクラブチームも参加できるようになります。ただ、競技団体ごとに、色々検討しているところです。

Q.合同のチームにした場合に、中学校から、毎日、別の練習場所に行くわけですが、移動手段、安全性の確保、移動費、引率の部分がどのように解決されていくのかという不安・疑問が出ました。

A.今おっしゃっていただいたお話は、現行部活動としてやっていることについての話だと仮定しますと、部活動である限りは学校管理下で行われていることになりますから、責任主体は学校になります。そうすると、果たして安全な距離なのかといった検討をされたうえで合同の活動が行われていくのだと思います。

また、地域移行、地域展開された後の新しい活動として行われていくということですと、責任主体が学校ではなくなります。

例えば教育委員会が実施主体となっていれば、教育委員会が責任者、地域のクラブが受け皿となっていれば地域のクラブが責任を持つという形で展開されていきますので、そういう中で、できるのか、できないのかを考えながらやっていくことになります。

距離、交通状況、公共交通機関、また、活動主体、種目などによっても、大きな物を持って動けないとか、

様々な要素があると思います。一律に、方針として、隣の学校でやる、といったことは難しいです。種目、エリアごと一つ一つで形が変わるものかと思っております。

引率するかについても、一つ一つ考えなければいけないと思います。中学生はどこまで一人で動けるのか、それは支援する人の数にも直結してきます。コストにも影響してきます。今、この瞬間にベストの答えを持ち合わせていないというところがございます。

Q.現実問題として、いきなり先生じゃない人がやると、保護者は不安に思う。そういったときに、教育委員会の方で、研修もしくは資格制といったことを考えていくのか。

また、地域のOG、OBが、在校生の子どもたちと関わるというのも地域としても大事なことだと思っはいるので、その辺をうまく進めていただけるようになるのかと聞いてみたい。

A.もう既に地域、民間が受け皿となっているような種目もあります。野球でいうと、硬式野球という種目は学校部活動にはありません。子どもたちは学校部活動ではなく、そちらを選択して参加しているという状況もあります。

こういうものもたくさんあっていいと思いますので、今回、この地域移行で、主体が教育委員会か、地域かというところで新しいものを作ろうとしています。それで、中学生の放課後、土日、スポーツ、文化芸術を行う機会を全てつくってしまうということでもありません。様々な種目・運営主体があつて、子どもがどれを選ぶかということだと思つています。

ただ、新しく教育委員会が主体となつて行つていこうというものについては、いきなり難しいところもあります。我々職員が全部、直接、指導者・マネジャーみたいなことができるわけではありません。特に板橋区は、およそ9,000人の生徒、300を超える部活動があります。こういったものを、これから地域移行、地域展開していくときには、おっしゃるようなことを仕組みとして作つて、人材をどんどん発掘といいますか、頑張ってもらわなければいけない方がたくさんいらっしゃると思います。そういうところについて、一定の必要な知識、事柄につきまして、我々が提供できることをしっかりとやつていくことは十分にイメージとして持っております。

Q.具体的にどう進めていくのか疑問に思つた。地域クラブに初心者の中学生が入つて、温度差は感じないのか。感じさせないためには指導者が足りないのではないか。種目ごとにどう進めていくのか知りたい。

A.これは失敗が許されない改革になりますから、その辺りを新年度からの推進計画の策定、イメージとしては策定委員会というものを持ちたいと思つています。そこで委員の方に就任いただき、理念、ビジョン、推進方針といったものをしっかりとご議論いただいて計画に落とし込みます。

それに基づいて、いつごろまで、どこまで、どれをどういうふうにするのか、そういったことを整理しながら進めていきます。と同時に、これは色々な方ご協力が必要になります。

関係者がたくさんいらっしゃると思いますので、そういった方々と協議会みたいなことも同時並行で行つていきたいと思つております。

Q.既存の部活動の中で、教育委員会が主体となつて、地域の団体と交渉しながら、地域と連携していくというような部分があつてもいいと思つた。

A.どうやって進めていくかということ非常に考えるのは難しく、推進計画策定の中でしっかりと考えたと思つておりますが、色々な考え方、やり方があると思います。

そうはいつでも、地域移行、地域展開のイメージが湧く種目から、これは非常に難しいなというもので、種目によって非常に違いがあるなと感じています。

例えばかなり大所帯なもの、野球とか、サッカーは1校1つぐらいあるかと思いますが、そういったものについては、非常に難しいなと思うところがあります。

もっと難しいなと思っているのは、吹奏楽が、指導者の方の力量とか、専門性とか、非常に高度で、また、構成員も多岐にわたっています。一つ一つが全く違う技術知識が要るのだとすると、これを地域移行、地域展開して、専門の先生じゃない人がやると考えたときに、正直、この瞬間にはイメージが湧かないものもあります。その辺りは、逆にお知恵をおかりしながら形にしていきたいと思っています。一つ一つ考えて、完全に移行できる時期、もしくは、そもそもそういうことができるかということについても非常に先が読めない困難な課題というところではあります。

Q.教員の労働時間はどんどん増えてしまう。これは先生方皆さん熱意が溢れるからだと思っています。その中で、部活動って、実際に例えば掛け持ちってどのぐらい、今、先生方はされているのか。実際、顧問を引き受けるときは、どういうやり取りがあって、どういう苦しみとかがあるのか。

A. (校長先生にお答えいただきました。) 労働時間ということでは、小学校の先生は部活動の時間がないので、その時間に、授業準備に時間を使えます。中学校の先生は部活動をやっているのだから、その時間帯はなかなかそういった業務に時間を使えないというのはあると思います。

部活が終わって6時半とか、そういう時間から、さあ仕事を始めようというのが実態だと思います。

掛け持ちという話がありましたが、中にはいます、どちらかという、それはメインの顧問ではなくて、サブの顧問の先生が、メインの先生がいないときは自分が見ますよという感じの掛け持ちが多いですね。メインで顧問をやっている先生が2つも3つもやるということは現実的にはあまりないと思います。

顧問の先生を決めるかということですが、一番困るのは、生徒はやりたいが、やりたいという先生がいない場合ですね。そうすると、仕方なく、校長がお願いする、という現実があります。

先生も、陸上をやっていた方がバスケ部をやってもらったりだとか、化学部をやってもらったりだとかという現実があります。

皆さん偉いのでちゃんとやります。ですが、心のどこかで、本当は陸上をやりたいなとか、負担だなどいうのはあります。あと、今の学校の先生たちは土日に関しては、特殊勤務手当ということで、一定の、この時間だと何千円という手当があるのですが、それでも一日やってそれぐらいの金額となってくると、バイトより安いじゃんみたいな、そういう感覚になっているところはあります。

でも、学校の先生は4%の時間外労働手当というのがついているのです。この4%の時間外労働手当で何時間も時間外労働をしているのです。

ということを見ると、6時半ぐらいから、さあ採点しよう、ノートを見ようとかとやっている現実がある中で、部活動のところを何とかしなきゃいけないかなというのが今の実態です。

Q.子どもがバスケをやっているが、バスケ部には入らないでクラブチームに入り、部活動としては、文化部に入ろうかと思っている。そうした場合に、内申をいただけるのか。クラブチームの方で、例えば全国とかに行ったら、そっちの方も加味されるのかとか、そういったところをお聞きしたい。

A. (校長先生にお答えいただきました。) クラブチームで、色々なものがありますが、クラブチームでやっている成果とか、そういうのも、中3の受験期になるとちゃんと調査します。成果を出した生徒に関しては、それを調査書や推薦書に記載します。そこはご安心いただければというふうに思います。

各班で出たご意見（抜粋）

<A班>

- 障がいのある生徒への支援が必要。参加できるクラブがない場合、SDGsの「誰一人取り残されない」との整合性が取れない。
- 勝負に拘りたい生徒とそうでない生徒への配慮が必要。
- 生徒の選択肢が増えることはメリット
- 部活の拠点校システムを取り入れた場合、ある学校に生徒が集中するなど、学校選択制に影響するのではないか。

<B班>

- 部活動をやりたい教員はどうするのか。
- 急に全て地域移行は無理なので、段階的に条件を整備しながら移行できるところから着手する。併行して、エリア方式や拠点校方式を取り入れ、現行部活動の改善を図っていくとよいのではないか。
- 現在、部活動指導補助員の存在がよい。顧問教員でもなく、技術等を指導してくれる斜めの大人の関わりや存在は子どもにとって良い影響を与えている。地域移行していった場合、専門の大人に関わり、のびのび活動していけるのではないか。

<C班>

- 今の部活は先生の異動によってなくなったり、できたりするので不安。
- 新しい部活動になった場合の大会への参加はどうなるのか、大会自体が変わっていくのか。
- 今までの学校単位であれば生徒自身で部活動を立ち上げることもできたが、新しい部活動ではそういったことはできなくなるのか。
- 地域の方が指導を行うと人事異動など理由に顧問や指導者が変わることがないが、指導者の固定化はメリットとデメリットがある。
- 今までは学校の中で部活動を行っていたので、保護者としては何かの部活には必ず入って頑張りなさいと言えた。しかし、学校外の活動になるならば新しい部活動には参加しないという選択肢もある。また、参加しないという選択を中学生の段階でしてしまっているのか疑問がある。
- 新しい部活動ではやりたい競技の指導につくことはできるのか。指導役が見つからない競技に充てられてしまうのではないかと心配。
- 新しい部活動では中学校単位の活動ではなくなってしまうので、地域特性や伝統がなくなってしまうのではないかと心配。さらに、自分の学校のために頑張ろうとか、ライバル校に勝つために一生懸命やろうと学校への思いという文化が薄れてしまうのではないかと心配になる。
- 新しい部活動が本当に先生の働き方改革につながるのか少し不安を感じている。
- 部活動のために越境することがなくなるのは良い。

<D班>

- 学校の部活動と地域のクラブ活動、習い事の違い、学校はなぜ部活をする必要あるのか。
- 指導員のなり手として小中学校OBの大学生やボランティアなどの協力でうまくいくのでは。
- クラブチーム活動も地域によっては活動が無い種目もあり、生まれた地域に左右されない仕組みが必要。
- 部活ではなくクラブチームであってもスポーツを通じた人格形成はされる。

- 学習面以外での教育は大切。地域の子どもの選択肢を増やせると良い。
- 部活動を中心とする教員人事をするわけにもいかない。教員が培ってきた活動やスポーツが個々で異なり、また指導者による指導方法の違いが顕著で、教員異動で指導方法が変わると子どもが戸惑う
- 部活を理由とした隣接区市町村への越境は認められるか。
- 部活を含めての学校生活であると考えため、学校から気持ちが離れていかないか。
- 移行中の子どものケアをどう考えるか。
- 指導者に免許制度など、指導レベルの標準化は必要。

<E班>

- ○○部は、このような方針といった案を提示してもらった方が、イメージしやすく検討しやすい。
- 段階的に調整しながら時間をかけて行っていくべき。
- 地域毎のヒアリングが大事である。
- 長期的に活動して行くためには、有料化しないと続かない。予算もつけるべきではないか。

<F班>

- 野球チームは野球部の受け皿になることができると思う。
- 地域と学校で連携できるはず。地域の情報を学校へ。
- 文科省のトーンダウンが気になる
- 市区町村の受け皿、ビジョンが少し見えてきた気がする、時間はかかりそう
- 民間人が教えるにも賃金面など、仕事として成り立つのか。
- 今ある部活の移行について、区はどのように進めていくのか見えなかった。

<G班>

- 本格的な地域移行の際、指導に必要な人員を本当に確保できるのか
- 指導人材への対価はどうなるのか
- トップレベルの生徒と純粋に楽しみたいだけの生徒の活動に取り組む生徒のレベルの差にどう対応するのか
- 体験入部がやりにくくならないか（部活に対する最初の敷居の低さがなくなってしまうのではないか）

<H班>

- スポーツ推薦についてはどうなるのか。
- 学校の名を背負って出ることがステータスになる。現状、クラブチームと連盟の両方には所属できないが、それは改訂されるのか。

教育長所感（要旨）

本日は、ご多用のところありがとうございます。板橋区における区立中学校部活動改革の推進について、保護者の皆様とファーストステップの議論ができましたことに重ねて感謝申し上げます。

新制中学校が戦後誕生して、70数年かけて行われ、部活動はこれまで生徒の自主的、主体的な活動を通して、責任感や連帯感を育てることに貢献するなど、学校教育の中で取り組んできた歴史があります。

その一方で、ここ最近、約10年で、全国の公立中学校が700校程度減少しており、現在の少子化により、学校単位での活動が厳しくなっている学校が全国的に増えてきております。

また、教員の意思や専門性に関わらず、顧問を務める体制に関しても、このまま続けていくのは難しいというのが現状です。

これまでの方法で問題のない学校や地域もありますが、10年、20年の長い単位で考えると、各学校において部活動が廃止、あるいは縮小されていくと、生徒がスポーツや文化芸術活動に親しむ機会が大きく減少してしまうおそれがあります。

そこで、国のスポーツ庁や文化庁は、将来のことを考えて、我々は今決断し、課題解決に向けて取り組んでいく必要があるべきと述べています。

このような事態を避けるための対策として、学校の部活動に代わり、地域住民の一員である生徒が、将来にわたってスポーツや文化芸術に親しめる機会を確保できるよう、小学生や成人の皆さんの他の世代と同様に、生徒も地域でスポーツや文化芸術に親しめる環境を新たに構築する必要があるのではないかという発想の下、この部活動改革が、今後、全国的に展開されていくことになると思います。

ただ、地域の実情は様々であるため、地域における新たなスポーツ環境の構築の方法は、地域の実情に応じた様々な方法が想定されると思われます。

そのため、板橋区においては、行政、学校、保護者の皆様、地域スポーツ団体、地域の文化芸術団体等と十分な議論を重ね、板橋区の実情に応じて、活動の実施主体、スケジュールなどを検討し、実行していくべきであると思っております。

そして、少し先の話になりますが、20年後の本区のゴールイメージには、SDGsにもうたわれている、誰一人取り残すことのない部活動の仕組みづくり、すなわち生徒が希望すれば、自分がやりたい種目が板橋区のどこかにあるという生涯学習の視点です。

ただ、いきなり現在の学校部活動を地域移行することには無理があります。幾つかの段階を踏んで、10年程度のスパンを見越してソフトランディングしていくことが必要です。

そのためにも、来年度は教育委員会事務局内部で多方面の方々を委員とした組織を立ち上げ、板橋の中学校部活動の方向性を明らかにしていきたいと思っております。

また、現在の中学校の部活動の在り方について、様々な検討を加えるとともに、同時並行で、指導者や活動場所の確保等、様々な課題についても、国や東京都、他の自治体とも協議しながら進めてまいります。

そして、忘れてはならないことは、部活動を地域移行することで、子どもたちの可能性がこれだけ広がるということ、子どもたち、保護者はもちろん、関係者が共有していくことが重要だと思っております。

今日の集まりを、まさに第一歩、ファーストステップとして、中学校部活動改革のスタートを切ってまいりたいと思います。

今後とも、貴重なご意見を、学校やPTA、iCS、教育委員会事務局へお届けいただければ幸いです。今後とも、教育の板橋実現に向け、よろしく願いいたします。